

鑑賞の授業のための名曲&名盤〈クラシック〉

国土潤一

モーツァルト作曲《魔笛》

ウィーンで自立した音楽家として生計を立てるようになったモーツァルトにとって、オペラはもっとも重要なジャンルとなった。モーツァルトのオペラはイタリア語による伝統的なオペラ・セリアとオペラ・ブッファ、そしてドイツ語の台詞と音楽で形成される歌芝居のジングシュピールの3種類に大別できる。お伽話オペラとして主にドイツ語圏で発展した

ジングシュピールは、《魔笛》によってひとつの頂点を極めると同時に、後のウェーバーの《魔弾の射手》によって確立されるドイツ・ロマン派の国民的オペラへの萌芽を、《魔笛》の中に見出すことも可能だろう。

18世紀ヨーロッパ社会と文化に強く影響を及ぼした秘密結社フリーメイソンの思想・スタイルや、当時流行した「救出オペラ」の要素、お伽話、教訓物語等のさまざまなエッセンスが、《魔笛》のなかには混在しているし、音楽的にも、ウィーン風の民謡、イタリアのオペラ・セリアとブッファの音楽スタイル、ドイツ民謡の有節形式、グルックのオペラ、ドイツ・プロテスタントのコラールとバロック音楽のポリフォニーといった多種多様な要素が混然一体と同居し、互いに緊密な関係を保ちつつ、有機的に全体がまとめられている。支離滅裂なストーリーと愛らしい音楽に惑わされるなかれ！ 天才モーツァルトがその生涯で蓄えた音楽的要素のすべてが、《魔笛》の中には結集しているのだ。天衣無縫のこの名曲の登場人物たちは、人間社会の縮図でもある。

レヴァイン指揮／メトロポリタン歌劇場管弦楽団 セッラ(S) バトル(S) アライサ(T) ヘム(Br) モル(Bs) 他 【ユニバーサルミュージック DVD:UCBG1005】

1991年のメトロポリタン歌劇場の公演の収録で、ブライアン・ラージの映像も美しい。ジョン・コックスの原演出のこの舞台の最大の魅力は、アメリカ・ポップアートの巨匠デイヴィット・ホックニーのデザイン。メルヒェン調の《魔笛》の舞台の美しさと楽しさがここには一杯に詰まっている。配役も豪華。セッラの夜の女王、アライサのタミーノ、モルのザラストロ、A・シュミットの弁者、ツェドニクのモノスタスは特に立派だ。ヘムのパパゲーノの「役者ぶり」も、映像ではひときわ魅力的。バトルのパミーナは、ドイツ語の台詞に難がある。

サヴァリッシュ指揮／バイエルン国立歌劇場管弦楽団 グルベローヴァ(S) ポップ(S) アライサ(T) ブレンデル(Br) モル(Bs) 他 【ユニバーサルミュージック DVD:PHBP1002】

1983年、ミュンヘンのバイエルン国立歌劇場での上演を収録したもの。アウグスト・エヴァーディンクの演出(ユルゲン・ローゼの美術)は、ドイツの伝統の上に成立した《魔笛》のスタンダードを示している。サヴァリッシュの節度とセンスに満ちた指揮の下、粒揃いの名唱も嬉しい。グルベローヴァの夜の女王、ポップのパミーナは、共に声楽的にも最上の演唱。タミーノ役のアライサ、ザラストロ役のモルも若々しい。ブレンデルのパパゲーノの安定度も高く、脇役まで名手を揃えた上演は贅沢なものだ。

ホルスト・シュタイン指揮／ハンブルク国立歌劇場管弦楽団 ドイテコム(S) マティス(S) ゲッダ(T) ワークアン(Br) ゴーティン(Bs) 他 【ドリームライフ DVD:DLVC1108】

1971年の収録で、ハンブルク国立歌劇場での舞台上演ではなく、映画用にスタジオ収録されたもの。演出は映画での名探偵ポワロ役で知られるイギリスの俳優ピーター・ユスティノフ。極めてオーソドックスな演出で、映画的手法をことさらに多用してはいない。シュタインの職人的とも呼ぶべき手堅い指揮に支えられ、タミーノ役のゲッダ、パミーナ役のマティス、ザラストロ役のゴーターン、夜の女王役のドイテコムら、当時を代表する名歌手の名唱が収められている。モノスタスをバリトンのグルントヘーバーが立派に演じているのも魅力だ。

F・ウェルザー＝メスト指揮／チューリヒ歌劇場管弦楽団 モシュク(S) ハルテリウス(S) ベッチャアラ(T) シャリンガー(Br) サルミネン(Bs) 他 【TDK DVD:TDBA0023】

2000年7月のチューリヒ歌劇場での上演の映像。《魔笛》は、さまざまな「読み替え」の演出が可能だが、ジョナサン・ミラーの演出は、モーツァルトが《魔笛》を作曲したマリア・テレジアの時代の貴族階級の旧体制と、新興市民文化の対立として、ドラマを作り替える。パパゲーノは鳥の羽を身にまとはないし、タミーノを襲う蛇は妖艶な半裸の美女だ。若手とベテランを適材適所に配したキャストも、ミラーの演出の中で生き生きとした演技と歌を聴かせてくれる。古楽奏法を導入したウェルザー＝メストの指揮も含め、現代版《魔笛》公演だ。

ショルティ指揮／ウィーン国立歌劇場管弦楽団 ドイテコム(S) ローレンガー(S) パロウズ(T) プライ(Br) タルヴェラ(Bs) 他 【ユニバーサルミュージック CD:POCL2141～3】

ショルティが1969年に録音した名盤。俊敏で鮮烈なショルティの指揮の下、名唱が記録されている。DVD以上の強烈な存在感を示すドイテコムの劇的な夜の女王、自然児パパゲーノの天真爛漫さの権化のようなプライのパパゲーノ、全人的魅力を湛えたタルヴェラのザラストロ、圧倒的な役作りの鮮やかさと声の存在感を併せもつシュトルツェのモノスタスは、同曲屈指の名唱といえよう。タミーノ役のパロウズが弱いのが、弁者にF・ディースカウ、武士にコロとゴーターン、童児たちにウィーン少年合唱団と、録音ならではの豪華な布陣だ。

クレンペラー指揮／フィルハーモニア管弦楽団 ポップ(S) ヤノヴィッツ(S) ゲッダ(T) ベリー(Br) フリック(Bs) 他 【東芝EMI CD:TOCE9121～2】

「モーツァルトに端役なし」という言葉がある。《魔笛》のような登場人物の多い作品でそれを達成するのは、実際の舞台にあっては不可能だが、録音ではそれも夢ではない。老巨匠クレンペラーが80歳を迎える直前の1964年に録音されたこの一組は、まさにドリーム・キャストと呼ぶべき配役。3人の侍女にシュヴァルツコップ、ルートヴィヒ、ヘフゲンという大家を揃えるなど、実演ではありえない豪華さだ。もちろん主役陣も万全の顔ぶれ。台詞を省略し音楽だけを収録した処理は賛否を分けるだろうが、音楽的充実度と密度は、とてつもなく濃密だ。